

園田茂人・新保敦子著「教育は不平等を克服できるか」

叢書 中国的問題群、岩波書店 2010年6月18日刊を読む

受験競争の激化という病弊

1. (1) このように都市 / 農村間、地域間の格差があるものの——いや、そうであるからこそ——、受験競争は熱を帯び、中国全土を覆っている。

(2) 2009年の大学統一入試試験は6月8日から9日にかけて実施されたが、全日制大学の募集数が629万人だったのに対して、応募者は1020万人いた(<http://caijing.com.cn> 2010年3月17日アクセス)。激化する受験競争は、優秀な学生を生み出す一方で、さまざまな負の効果をもたらしている。

2. 一人っ子政策という「圧力釜」

(1) 第一に指摘しなければならないのは、少子化が進む中で、子どもへの圧力が強くなっている点である。一人っ子政策によって家庭における教育投資の集中化が進み、子どもたちは厳しい受験競争に晒されるようになってきているのである。

(2) 都市部では中産階級を中心に早期教育に関心が集まり、胎教が重視されるようになってきている。都会の書店には児童書コーナーが設けられ、早期教育向けの英語教材や国語教材、数学教材が並べられている。文化的な優越性を得ようと、都市部の中産階級は教育への投資を惜しまないからである。

3. 農村をも巻き込む受験競争

(1) 問題は都市部にあるだけではない。今では農村部や少数民族地域でも、子どもが受験勉強に追われるようになってきている。社会的上昇のためには学歴が必要という意識が生まれ、少数民族地域においても、親や子どもの多くは高校や大学までの進学を希望している。

(2) しかしながら、都市と農村とでは、スタートラインが異なり、上級学校への進学にはいくつもの越えなければならないハードルがある。

(3) 特に、高校への進学・卒業が困難な点を指摘しなければならない。

(4) 中卒で出稼ぎの場合は、単純な農作業や炭坑労働といった不安定で危険な仕事しかない。しかし高卒であれば都市部の工場で比較的給与の高い仕事を見つけることも可能となる。中国において高校卒業生の教育収益率は高く、義務教育段階の中学校卒業後に、高校に進学し卒業ができれば、将来性もある。

(5) しかし農村部では高校の数が限られているため高校への進学は難しい。表 6-2 は、1977 年と 2007 年の二時点における、都市、県鎮、農村の学校数を示したものであるが、教育の効率化や財政上の問題から学校の統廃合が推進され、農村における高等学校の数が急激に低下していることがわかる。

(6) その結果、農村では中学から高校への進学が難しくなっている。

P143 ~ 145

[コメント]

中国の 2009 年度大学統一入試の受験生は 1000 万人を超えた。大学入学希望者激増を背景に中国の大学は大増設、大建築ラッシュにわいている。1 学年の定員が 1000 万人を超える日も間近い。インドも大学の 1 学年 1000 万人入学を目指している。このような国が身近にあることを常に認識してあらゆることを考えねばならない。

- 2010 年 8 月 16 日 林 明夫記 -